

名前： _____

学籍番号： _____

⑥

vim はかつては _____ と呼ばれていた _____ エディタである。

これにより、原則として _____ フォーマットの _____ ファイルについて、その内容を _____ たり、新しく _____ したり、既存のファイルを _____ することができる。

vim には複数の状態としての _____ があり、どの状態にあるかによって、同じキー入力による挙動が変化するので非常に混乱しやすく注意が必要である。

vim を使いこなせる様になるためのポイントとして、操作中に可能な限り _____ や、矢印のついた _____ キーに触れないように心がける必要がある。

すでに存在するファイル newfile を vim で編集する場合、コマンドラインで以下のように入力する _____

上記により開かれたファイルを表示する画面で、左側に _____ 記号が並んでいる行は、その行が存在しない空行であることを示す。

vim を終了する場合にはまず、_____ キーを押して、カーソルが画面の _____ に移動するのを確認したのち、_____ キーを押して、エンターすることで終了できる。

vim には先に書いたように、_____ つのモードがあり、どのモードにあるかによって、同じキー入力に対する反応が異なるので注意が必要である。

最初の状態として vim を起動した直後は _____ モードにある。ここで入力された文字は画面には反映されず、カーソルの移動や編集操作として認識される。vim を _____ するときにはこのモードにある必要があり、他のモードからこのモードに戻る時には _____ キーを押す。

2つ目のモードとして先に vim を終了するときに行ったように、まず _____ キーを押すと、カーソルが最下行に移動し、q,w,wq などの _____ を入力できる状態になる。この状態を _____ モードと呼ぶ。この状態から最初の状態（モード）に何もせずに戻るためには _____ キーを押す。

3つ目のモードとして、通常のエディタの操作に最も近い状態として、キーボードから入力した文字がそのまま画面に反映されていく _____ モードがある。この状態では vim の終了やファイルへの書き込みを行うことは出来ないため、入力が終了したときは _____ キーを押して _____ モードに移行する。また、軽微な打ち間違いについては、backspace (delete) キー等で修正しながら入力するが、行全体の削除など大きな変更は _____ モードで行う方が容易である。

4つ目のモードとして、領域を GUI のマウスドラッグのように選択し、コピーペーストなどの操作を行えるモードがあり、これは _____ モードと呼ばれる。

先に、vim を終了するとき:q により終了したが、編集が行われた場合には上書きして終了するか保存せずに終了するかを選択しなければならない、前者は:_____ 後者は:_____ とする。また、終了せず編集結果を元のファイルに上書きするには:_____ とし、元のファイルの内容は変更せず編集結果を foo というファイルに書き込むためには:_____ とする。

ノーマルモードからインサートモードすなわちファイルに文字を書き込める状態にするには、_____ キーをおして、カーソルの前から記入を開始する、_____ キーを押してカーソルの後から記入を開始する、_____ キーを押してカーソル行の下に新しく挿入される行の初めから記入を開始する、などの方法がある。入力中は _____ キーや ctrl-h キーでカーソルの前の 1 文字を消しながら戻ることができる。また改行には _____ キーを入力する。入力を停止してノーマルモードに戻るには _____ キーを押す。

ノーマルモードでのカーソル移動には、_____ (左) _____ (下) _____ (上) _____ (右) を用いる、矢印のカーソルキーでもできるが、ホームポジションから右手を動かさないで操作することが作業効率の向上に大きく寄与する。のでなるべくこれらのカーソルを使う様にする。_____ キーを押すとカーソル直下の 1 文字を削除できる。

これらのキー操作の前に数値をつければその回数分の操作が繰り返される。例えば 3l とすれば 3 文字右にカーソルが移動し、3x とすればカーソルの直下から、右側に 3 文字が削除される。

こうした操作を取り消す場合には _____ とし、取り消した操作を再度実行するには _____ キーを押しながら _____ とする。